

## 日本の若者の理系離れ

- **現象:**

日本では、科学技術への興味や関心が薄れ、理系を選択する学生が減少する傾向があります。

- **原因:**

- 科学技術の成果を享受する一方で、生産者になることへの意欲が低いという指摘があります。
- IT 市場の拡大や少子高齢化による学生数の減少も、理系人材の不足に影響していると考えられます。
- 文部科学省は、学生の問題、教育密度、大学教育システムの問題を指摘しています。

- **状況:**

理系を選択する学生の減少は、将来の科学技術立国としての日本の競争力に影響を与える可能性が懸念されています。

## 海外の若者の状況

- **現象:**

海外でも、先進国を中心に、理系離れや科学技術への関心の低下が見られます。

- **原因:**

日本と同様に、科学技術の恩恵を享受する一方で、生産者になることへの意欲が低いことが要因の一つとして挙げられます。

- **状況:**

- 海外の大学では、日本からの留学生数が減少傾向にあります。
- これは、グローバル化に対応できない日本の社会制度や教育環境、学生の意識も影響していると考えられます。

- 一方で、海外の大学への留学を希望する学生もあり、アメリカのカリフォルニア大学などが人気です。
- 文部科学省によると、海外留学者数は増加傾向にあり、アメリカへの留学者が多いことがわかります。

## 比較

- **共通点:**

先進国を中心に、科学技術の成果を享受する一方で、生産者になることへの意欲が低いという点は、日本と海外で共通しています。

- **相違点:**

- 海外では、グローバル化への対応や、より高いレベルの教育を求めて、留学を選択する学生もいます。
- 日本の場合は、少子高齢化や社会制度の影響も大きく、理系離れが進んでいると考えられます。
- 

## 結論

日本の若者の理工系離れは、海外でも見られる現象ですが、日本社会の構造的な問題や教育環境も影響していると考えられます。海外の状況も踏まえ、理系人材の育成や、グローバルな視点を持った人材育成が重要です。